

氏名	松村 千鶴
授与した学位	博士
専攻分野の名称	保健学
学位授与番号	博乙第4445号
学位授与の日付	平成27年 3月25日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文の題目	多次元評価指標による綿タオルと化繊タオルの部分清拭効果の比較
論文審査委員	斉藤 信也 教授、猪下 光 教授、佐藤 美恵 准教授

### 学位論文内容の要旨

本研究の目的は、綿タオルと化繊タオルの素材の違いが清拭効果に及ぼす影響を比較することである。健康女性16名を対象に、タオルの種類を変え、異なる日に同じ方法で背部と四肢の部分清拭を実施した。タオル素材には綿タオルと化繊タオルを用い、大きさを47×17 cmに揃え、素材には200mLの同量の水を含ませた。タオルはすべて恒温器で加温し、55.0±0.2℃に保った清拭効果の評価には皮膚温、深部温、血圧、心拍(HR) POMS 短縮版、覚醒度とリラックス度(VAS) 素材の肌触りのリッカートスケールの多次元指標を用いた。その結果、どちらの素材を用いた場合も清拭実施中には、一時的な心拍数の減少、清拭終了後にはPOMSの評点の減少、覚醒度の低下、リラックス度の増大が、それぞれ有意に認められた( $P < 0.05$ )。自律神経活性は清拭によって著明に変化しなかったが、綿タオルによる清拭実施中にのみ交感神経活性(LF/HF)が有意に低下していた( $P < 0.05$ )。両素材ともに清拭開始後から前胸部、前腕の皮膚温、そして深部温が暫時上昇した( $P < 0.05$ )。化繊タオルでは、さらに末梢部(前腕、右手指先)の皮膚温も上昇した( $P < 0.05$ )。一方、清拭終了後の肌触り感は、化繊タオルのほうがより適度な柔らかさと評価されていた( $p < 0.05$ )。以上のことから、化繊タオルと綿タオルは部分清拭ではほぼ同等の良好な清拭効果を示すものの、保温性と肌触り感では化繊タオルの方が優れていることが分かった。

キーワード：綿タオル、化繊タオル、健康女子学生、部分清拭、多次元評価指標

### 論文審査結果の要旨

本論文は、清拭の際に用いるタオルに関して、従来の綿タオルと使い捨ての化繊タオルを比較したものである。タイトルは「清拭効果」となっているが、清拭の主目的は、入浴不可能な入院患者に対する皮脂や汚れの除去、それに伴う皮膚の清浄化と思われる。本研究では主として生理的評価が可能な指標による効果の比較に限られており、タイトルがやや不適切と思われる。また結論に「保温性の点では両素材ともほぼ同等の好ましい効果を示した。それに加え化繊タオルの方が綿タオルに比べ保温性に優れていた。」とあるなど、まったく整合性を欠く記載が見られる。他にもケアレスミスが散見され、論文としての完成度はあまり高くないものと判断せざるを得ない。また研究内容に関しては、女子大学生を対象としたことにより、羞恥心のない部位のみの清拭にとどまっていることから、実際の清拭と相当異なっており、得られた結果を看護臨床に一般化するには限界が大きいと思われた。

一方、副論文・参考論文を含めて、清拭に関する非常に包括的な研究を行っていることは、評価に値する。こうした看護の基本となる技術に、科学的エビデンスを与えようとする試みは重要なことと考える。本論文は、清拭に用いる化繊タオル素材が限定された被験者に対して生理学的、主観的に良好な効果を与えることを明らかにし、臨床に一定のエビデンスを提供したことにより、博士の学位に値すると判断された。